
目次

本事業の概要	2
事業全体をふりかえって	3
連絡協議会	6
ガールズSST	7
親と本人の相談事業	23
Aさんの事例より	26
配布資料	29

本冊子の無断コピー・転載はご遠慮ください。

本事業の概要

事業名	自立・就労に向けた若者と親の支援事業
実施期間	2018年5月～2019年3月
活動をはじめた経緯 (団体の沿革)	<p>設立当初より女性の自立のため、働く女性のための寄宿舎や日本初の夜間女学校を開設。女性の職業訓練やリーダーシップ養成にも早くから着手し、女性の自立と成長のサポート、ボランティア育成や日本語教育、青少年育成、社会福祉活動、平和や環境問題、国際理解と国際協力、人権擁護などのために活動している。</p> <p>障がい者分野では、1981年に「ことばの学校」を開設。当時、公的機関では発達検査は行っても、治療期間は最長で2年間しか実施できなかったものを最長9年間、定期的な療育・治療・観察・指導を実施。同年、児童書専門の「点字子ども図書室」、知的障がいのある女性のための余暇活動「グループ・パレット」、視覚障がい者のための音訳活動、生花教室などを実施している。</p> <p>また2016年度より、就職をめざす特別支援学校等に通う女子生徒を対象に、就労を目標とする社会生活技能訓練（ソーシャル・スキル・トレーニング＝SST）を開始。2017年度には、SSTに加え、自立・就労を応援する「ケースカンファレンス」を行い、特別な支援を必要とする人たちのための包括的支援を展開している。</p>
直近3年間の主な活動実績	<ol style="list-style-type: none"> 知的障がいを持つ女性のための自立に向けたトレーニングおよび研修事業 (公益財団法人大和証券福祉財団 第23回ボランティア活動助成) 昭和56年より開始した子どものための点字本作成・貸出、など (事業収入 補助金・助成金なし) DV被害者のための中長期支援施設の運営と被害者支援啓発活動 (夕陽丘基金運営委員会 夕陽丘基金助成) 生きづらさの特性をもつ若者や特別支援学校の生徒・保護者への支援事業 (2016年度公益財団法人倶進会 2017年度独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成)
事業内容	<p>◆連絡協議会の実施</p> <p>①ガールズSST 特別な支援が必要な女子のためのソーシャル・スキル・トレーニング</p> <p>②相談事業 生きづらさ、特性や障がいを抱えた若者の自立・就労応援プログラム</p>
実行委員会メンバー	<p><アドバイザー></p> <p>金 香百合 (HEALホリスティック教育実践研究所所長)</p> <p><実行委員会メンバー></p> <p>社会福祉士、元教員、臨床心理士、言語聴覚士、看護師、</p> <p>その他大阪YWCAで社会貢献活動を行っている会員やボランティア</p>
連携団体	<p>eトコ・プロジェクト、大阪市北区ダウン症児親の会</p> <p>社会福祉法人 大阪市障害者福祉・スポーツ協会ワークセンター中授</p> <p>社会福祉法人 大阪キリスト教女子青年福祉会</p> <p>国際障害者交流センター(ビッグ・アイ) 就労支援室</p> <p>特定非営利活動法人燦然会 就労支援センターぜ・す・と</p> <p>HEALホリスティック教育実践研究所</p> <p>NPO法人ZUTTO(若者居場所ぐーてん)、社会福祉法人枚方療育園山西福祉記念会館</p>

事業全体をふりかえって

<2年の取り組み>

公益財団法人大阪YWCAでは、2017年度と2018年度の2年にわたり、独立行政法人福祉医療機構社会福祉振興助成事業の助成金を頂き、「自立・就労に向けた若者と親の支援事業」を実施することができました。初年度は、特性や生きづらさを抱えた若者の就労を軸にした総合的支援を目的とし、5つの事業を柱として計画しました。

1. 啓発周知
2. 生涯にわたる総合的自立の教育プログラム（SST）
3. 伴走型包括支援としての相談
4. 地域支援者養成と研修
5. 支援者・団体等の連携

これらの課題を社会に周知し、改善していくためには、まだ継続が必要です。一方で我々は、助成金事業としてパイロット的な視点を持ち、2年目は初年度の成果と評価検討をふまえて、SSTと相談事業の二つに絞り込み、事業内容に新たな工夫や回数を増やす等改善を加えて実施しました。

<事業の背景>

1. 制度の変化と取り残される当事者と家族

大阪YWCAには、30年の歴史をもつ、知的障がいのある若い女性たちのグループ活動「グループ・パレット」があり、当事者の[人権][自己決定]をより充実させた余暇活動の支援を継続しています。この間に、障がい者を取り巻く社会環境や制度も大きく変わり、特別支援教育拡充や障がい者自立支援法などにより、障がいの程度や個別性に応じた就労支援や生活支援が行われるようになっていきます。障がい者雇用の比率を上げるという政策をうけ

て、障がい者にとっても就労機会は多くなったといえます。また発達障がいなどの、目に見えにくい障がいについても、広く知られるようになってきました。学校卒業後にも、制度の中では生活支援や就労という新たな目標が明確になってきたといえます。しかし当事者やその支援者として一番近くにいる家族にとって、その目標は意識化されていないことも多いと感じます。

2. 高齢ニートや就学前療育とそれ以前の問題

当事業は10代・20代を主たる対象としていますが、ホリスティックな視点では、40代以降の長期化している「高齢ニート問題」「高齢ひきこもり」の早期改善としての効果もあると思います。また思春期以前の、就学前・就学中の当事者と親の支援の少なさに気づかされ、その早期の立て直しという効果もあると思われます。双方にとって、また、「8050問題」という言葉に示される、親80代、子ども50代でひきこもりつつ、社会的孤立・無援状態の家庭が多いことへの危機感が報道され衝撃を与えました。

3. 障がいや特性の受容と非受容

特別支援学校等に在籍した場合は、在学中に、生活支援や就労についても、より細やかな計画に基づいたサポートが得られやすいです。しかし、当事者や保護者が、障がいを受容していない場合や、その他の理由で障害者手帳を取得していない場合などは、そうした支援に関わる情報や手立てにつながっていない場合が多くみられます。今年度は、こうした「グレーゾーン」にいる当事者と家族の困難さに関わるものが多くありました。

こうした背景の中で、①ガールズSSTは、総合的自立にむけた教育プログラムとして行なうこと、②相談事業は、多様なケースと個々人に応じて伴走型支援をし、恒常的な支援につなぐこと、という二つに絞り込んで実施しました。

<事業内容>

1. 特性をもつ若い女性たちの、生活支援と就労を包括的にめざしたSSTプログラム

今回の特徴は①一泊二日の合宿を4回に増やし、②パーソナルサポーターとしての支援者が同行しながら、個々のメンバーの支援や支援計画を考えたことです。合宿が4回ということでの効果は、①思春期女子の性や生活の問題をテーマにすることができる、②障がいや特性のある当事者に、スモールステップでの体験機会がある、③保護者のレスパイトケアができる、④障がいや特性の故に、親子密着になりやすい親子関係に、親離れ・子離れの機会をつくる、⑤当事者の仲間作りが深まる、という点です。全てのプログラムにおいて、彼女たちに「伝える言葉」と「理解しやすい学習方法」を用いることを心がけました。

2. 生きづらさ、特性、障がいを抱えた若者

(10代~30代)の自立・就労応援プログラム

10代~30代の生きづらさを抱えた当事者の状況は多様です。性別も就学・就労状況も健康状況、家族状況、経済的状態、福祉サービスの利用状況もさまざまです。それゆえ、当事者ひとりひとりの個別的・伴走型包括支援が必要でした。

つなぐ支援

多くの相談機関では、情報提供をしますが、そのあとは当事者まかせになることも多いのです。提供された情報につながり、活用するまでのハードルは非常に高いものがあります。

この時代には情報弱者であることで、大変な不利益を蒙ります。役所や病院や就労移行支援事業所などに「行くこと」、即ち、資源につながるまでの、「**つなぐ支援**」がカギとなります。同行支援は、物理的な壁よりも、不安や畏れ、あきらめなどの心理的な壁を突破するために、大変重要な支援です。

この事業でのチャレンジは、「つなぐ支援」の具体化です。つなぐためには、エネルギーと時間が必要です。つながり、という言葉は巷にもあふれていますが、むしろつながっていない現実があります。

①人と人がつながる（当事者と家族、当事者と支援者、家族と支援者、支援者と支援者など）、②当事者本人の中でつながりが形成される（現状と課題、課題と解決案、希望と計画、計画と実行、人生を生きる主体性、お金・仕事・住まい・余暇活動、ライフプラン、等が全体として考えられるようになる）。効果をあげている支援は、必ずこうした「つなぐ」視点があり、そのことを実現するためにエネルギーと時間をかけています。

人生のタイミングをつかむ

「高齢ひきこもり」を支援する団体は、回復の力が20代で、30代・40代と年齢があがるほどに、さまざま機会も意欲もなくなっていくことを警告しています。その点からも、生きづらさを抱えた若者たちへの取り組みは、10代・20代に「良い支援を集中的に」行うことが効果的と考えられます。特に義務教育とそれに相当する15歳から18歳ころの「タイミング」を効果的に活用するかどうかで、その後が大きく変わります。

また一方で、就学前の障がい児をもつ保護者たちも、学校選びには悩みが多いことがわかりました。学校や地域による差も大きく、また情報が少ないことから、自分の目で、足で確かめることをすすめていますが、同行可能な専門的サポーターの存在が必要です。特別支援学校なのか、地域の学校での

特別支援学級なのか、また放課後の療育や成長を支援するトレーニングなどはあるのか、等。現状では、児童発達支援施設での保護者の相談をうけるまでの包括的支援は、専門性の質と量において偏りがあります。良い支援を行っている団体でも国などの公的助成を組み合わせても、18歳までしか対象でないことが問題です。永続的な支援（パーマナエンシー）の視点で、包括的に生きづらさをもつ子どもと保護者を支援することが、のちの高齢ひきこもりを回避していくこととなります。

特性や生きづらさを抱えた若者の現状や支援の在り方については、年々社会の関心が高まっているとはいえ、まだまだ十分に理解が浸透し、当事者や家族に届いているとはいえません。とりわけ、保護者や親族がひとりりで悩みを抱え込んでいることが多く、そのために支援の枠組みにつながりにくいケースが水面下に多々あることが確認できました。

この事業での課題は参加募集にあり、必要としている若者たちのところにどうやって情報を届けるかということにあります。ネットは使っていても、使用の仕方が偏っていて情報弱者になっているケースもよくあります。昨年度の実績から特別支援学校等への案内配付をしましたが、特別支援学校以外に在学している若者たち（特別支援学級、通信制高校、単位制高校、私立高校など）と卒業生が集まりました。支援学校以外の場所に所属しているケースでは特性や障がいの受容ができていない場合もあり、問題に直面することが「ゆるやかな先送り」（塩漬け状態）になってしまいます。そしてたちまち、当事者は30代に、40代にと突入していきます。

特別支援学校では、比較的、生活支援や就労を見据えたカリキュラムが実施されており、この早期支援が効果を上げるといえます。他方で、支援学校ではない通学の場合、卒業後には就労などの支援が途

絶えたまま、ニート・ひきこもりになり、親の高齢化など、大変な状況になって、はじめて支援につながることも多くあります。そのような現状から考えると、支援学校・高校卒業後の20代から30代に、問題が山積してくることもあります。10代後半から30代にかけての青年期を点でとらえず、線や面にして、包括的支援（ホリスティック・アプローチ）が必要であることを、再度確認しました。

当事業が、保護者や学校関係者からは非常に必要とされていることがわかりました。何より、個別相談をして明確になったことは、メンバーひとりひとりが自分の思いと夢をもっている、という当たり前の事実です。しかし、そうした当事者の声をじっくりと聴きながら、共に考えるということが身近な家族ゆえに逆にできないことも多々あります。

2019年は、希望者はグループ・パレットへの参加が始まっています。さらに今回の相談ケースを継続して支援していくことが決定しています。期限付きの相談では、当事者の体調や家族問題から課題が残ることも多いため、継続支援を実施します。

この2年の試行錯誤の中で、解決できたものとさらに見えてきた課題の両方があります。タイミングをとらえて「早期に良質の支援を大量に」提供することで、劇的な改善がはかられるケースもあり、一方で、膠着した引きこもり生活のなかでこじれているケースもあります。しかし後者の場合でも、今の状況が必ず改善できることを信じ、これからも当事者や家族に寄り添い、伴走し続けていきたいと思えます。

最後になりましたが、国際障害者交流センター（ビッグ・アイ）就労支援室、社会福祉法人枚方療育園山西福祉記念会館、資生堂ジャパン株式会社をはじめ、多くの方々のご協力に心から感謝申し上げます。

アドバイザー：金 香百合

連絡協議会

開催日程：2018年5月30日（水）14：00～16：00

開催場所：公益財団法人大阪YWCA

出席者：飯島秀司（国際障害者交流センター（ビッグ・アイ））、上好 功（特定非営利活動法人
燦然会）、金香百合（HEALホリスティック教育実践研究所）、坂本えりも（大阪市
北区ダウン症児親の会）、瀧澤美紀（大阪市北区ダウン症児親の会）、辻川さとみ（大阪
キリスト教女子青年福祉会シャロン千里）、西畑功士（社会福祉法人大阪市障害者福祉・
スポーツ協会ワークセンター中授）、和田美穂（NPO法人ZUTTO（若者居場所
ぐーてん））

小澤裕子、河合由美子、澤 裕子（以上、大阪YWCA会員）

牛江真由子、川崎仁子、木下和江（以上、大阪YWCA事務局）

プログラムを終えて

大阪YWCAより、本事業の目的、概要、今後のスケジュールについて説明を行なった。

協議会は1回のみで開催となったが、方向性を共有するための連携体制を強化することができた。また学校、福祉、相談機関、障がい者施設、NPO法人等、様々な分野の支援者となつがることの重要性を再認識した。



連絡協議会の様子

ガールズSST

特別な支援が必要な女子のためのソーシャル・スキル・トレーニング

このプログラムは、特別な支援を必要としつつも就職をめざしていこうとする女子を対象に、社会生活に必要な知識や生活スキル学びながら就労実習を体験するもので、デイプログラム2回、宿泊研修4回を取り入れ実施した。



(1) 第1回デイプログラム

■開催日程：2018年8月26日（日）13：30～15：30

＜欠席者用に9月1日（土）に同じ内容のプログラムを実施。＞

出席人数：14名（うち参加者4名）＞

■開催場所：大阪YWCA（大阪市北区神山町11-12）

■出席人数：22名（うち、保護者・職員・講師・ゲスト計16名）

■実施内容

あいさつ、概要説明、スタッフ紹介の後、参加者と保護者それぞれに分かれてオリエンテーションを行なった。

●コミュニケーション・トレーニング①

～自己紹介と仲間作り（参加者）～

ゲームを取り入れながら、自分の名前、好きな食べ物、嫌いな食べ物、好きなテレビ等をみんなに紹介した。初対面にもかかわらず、終始楽しい雰囲気で行なわれた。



●オリエンテーションと情報交換会（保護者）

ガールズSSTの目的、宿泊研修の意義や諸注意を説明した。

その後、ゲストスピーカー2名の体験談を聞いた後、個々の家庭での状況や学校生活などについて話してもらった。



ゲームをしながら自己紹介

●個別面談

職員と当事者親子で、「宿泊研修事前チェックシート」を元に個別面談を行った。



(2) 第2回宿プログラム①

■開催日程：2018年9月22日（土）～9月23日（日）

■開催場所：国際障害者交流センター（ビッグ・アイ）（堺市南区茶山台1-8-1）

■出席人数：20名（うち、保護者・職員・講師・ボランティア計10名）

■実施内容

宿泊研修第1回目。メンバー全員がそろうのはこれが初めてとなり、メンバー間の相性や各人の特性など観察に力点を置いた。仲間作りをメインとし、次回も来たいと思えるような楽しい雰囲気になるよう心がけた。プログラムとしては後の就職につながるものを意識しつつ、まずは基本的な生活習慣の見直しを主とするプログラムとした。

【1日目・9月22日（土）】

●オリエンテーション・ウォーミングアップ

ウォーミングアップではプリントの手折り作業をした。指示通りきっちり手順を踏み、丁寧に作業をする人が大半ではあるが、補助なしでは手先の作業が難しい参加者もいた。



今日の流れを確認

●コミュニケーション・トレーニング②

～自己紹介と仲間作り～

お互いを知る機会を設けた。良いコミュニケーションには自己を知り相手を知ることが大切であることから、二人ずつペアになりお互いの自己紹介をし、それを元に他己紹介を他のメンバーに対して行った。



大きな声ではっきりと話す練習

●スマホやケータイとの付き合い方

参加者の利用状況の把握を行った。ケータイを1日どれくらい使っているのか、使用しているSNSの種類、ケータイの使用料など、自分とスマホの距離を確認した。



●食事の作法①

協力：ビッグ・アイ就労支援室

ビッグ・アイ就労支援室スタッフの指導により、おじぎの仕方、トレーの持ち方からはじまり、食前に全員が配膳練習を行った。食事中のマナー、食後の片付け方など個々人に必要な指導を随時行いつつ食事をとった。



テーブルに料理を運ぶ参加者

2019年8月27日(水)

タイトル: ガールズSST 「スマホやケータイとの付き合い方」

出席者: _____

1. 毎日に使っていますか?	頻度	スマホ	LINE	メール	その他
2. スマホの料金はいくらですか?	料金	月額	その他		
3. スマホの機種はどれですか?	機種	機種名	その他		
4. スマホのアプリはどれですか?	アプリ	アプリ名	その他		
5. スマホの使い方はどうですか?	使い方	使い方	その他		

その他: _____

講義のレジюме

●コミュニケーション・トレーニング③

「トーキングゲーム」(いろいろな質問が書いてあるカード)を使用。一人ずつカードをひいて、その答えをみんなの前で発表した。自己紹介の変化球版。スタッフも交え、大いに盛り上がった。



「今まででいちばん嬉しかったことは？」等が書かれたカードをひいて、答えていくゲーム

●みだしなみと服装について

「おしゃれ」と「みだしなみ」の違いに始まり、社会人にとって必要不可欠な他人に不快感を与えない身だしなみについて具体的に解説。髪の毛の扱い方については、くし、ヘアピン、ヘアゴムを全員に配布し、全員その場で髪の毛の整え方を練習した。



くしで身だしなみを整える

●お金のはなし①

まず自分とお金の関わり方についてふり返し、「お金で困ったこと」など参加者それぞれの経験を共有した。



参加者とボランティアサポーターがペアになり、ワークを行なった

【2日目・9月23日（日）】

●就労体験実習①（清掃業務体験）

協力：ビッグ・アイ就労支援室

大阪知的障害者雇用促進建物サービス事業
協同組合（エル・チャレンジ）

清掃業務によく使用される様々なそうじ用具の使い方や雑巾の絞り方、窓の拭き方などをビッグ・アイのスタッフに教わり、その後実践。2日目ということもあり、参加者に疲れが見え始めた。



モップの使い方等、基礎から学ぶ

●まとめとふり返し

2日間で学んだことをふり返し、次回参加へのモチベーションを高めて終了した。

起床から就寝まで行動を共にする宿泊研修は、実際の場面に立ち会えるので生活指導に最適である。次回以降の研修のベースとなる2日間となった。





(3) 第3回合宿プログラム②

■開催日程：2018年10月20日（土）～10月21日（日）

■開催場所：国際障害者交流センター（ビッグ・アイ）（堺市南区茶山台1-8-1）

■出席人数：17名（うち、保護者・職員・講師・ボランティア計9名）

【1日目・10月20日（土）】

●就労基礎実習①

A4のチラシを三つ折りにし、封筒に封入する作業を行った。紙の枚数を数え、正確にきれいに折り、封筒に入れることを心がけた。



●就労面接実習①

面接のマナーについて簡単に講義を聞いた。その後、あいさつ、着席のタイミング、声の大きさなどに気をつけながら練習を行い、その様子を動画撮影した。

前回に引き続き、身だしなみについてもチェックも行った。自分で鏡を見ながら髪の毛を整えるなど、前回学んだことをそれぞれが実践し、また他の参加者を手伝うなどしていた。



緊張した様子で面接官の質問に答える参加者

●就労体験実習②（ホール業務）

協力：ビッグ・アイ就労支援室

トレーのもち方に始まり、食事の配膳などを学んだ。三本の指でトレーを支える、水の置き方や配膳の位置など実際にやると覚えることが難しく、一つひとつ丁寧に指導してもらいながら実施した。

●食事の作法②

前回に引き続き、食前に全員が配膳練習を行った。ナイフやフォーク、スプーンの使い方など、基本的な食事マナーを随時行いつつ食事を楽しんだ。

●性のはなし①

講師より絵本をつかって、男女のからだの違いを聞いた。また映像で女性のからだの成長と生理について学び、実物の生理用品や下着をつかって、おさらいをした。

安心した雰囲気の中、この場だけの話であるということを前提に、安心して幸せなセックスと不安で不幸なセックスについて話し合った。またSNSでどのような危険があるのか、具体的な事例をもとにそのようなトラブルに遭わないよう注意を促した。

【2日目・10月21日（日）】

●就労体験実習③（清掃業務体験）

協力：ビッグ・アイ就労支援室

大阪知的障害者雇用促進建物サービス事業

協同組合（エル・チャレンジ）

ビッグ・アイの会館清掃を行った。事前に30分間、「服装とマナー」「清掃する場所と道具」「よく使う道具と使い方」についてDVDを観て、清掃のポイントを学び、清掃業務を行った。指導員の方々にお手本を見せてもらい、丁寧な指導のもと清掃業務を行った。1回目の合宿に続き、2回目の清掃業務ということで、前回やったことも含まれていたため、とても積極的なメンバーが多かった。道具の使い方も、1回目の恐々触る様子はなく、慣れた様子で扱っていた。最後に指導員の方の総評では、「すぐにでも働くことができる人もいますね」と言ってもらうことができた。



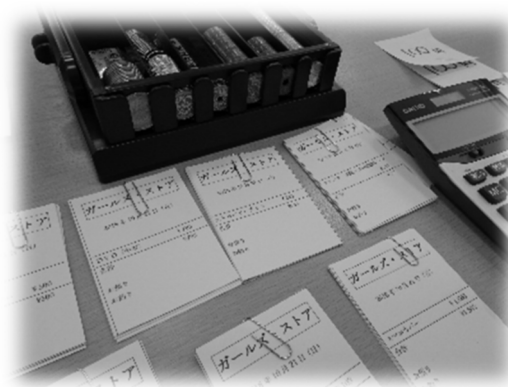
上) 拭く手順を学んでから窓拭きに挑戦

下) 雑巾の絞り方を教わる参加者

●お金のはなし②

限られた金額の中で、何を買い物ができるかをサポーターと一緒に考え、商品を購入する疑似体験を行った。より臨場感を出すために様々な金種の本物のお金を用意し、レジでレシートとお釣りを受け取る行程をつくった。また買ったものをお小遣い帳につけ、残金を確認した。また個人的に欲しいものの値段を知り、それを買うためにはいったいどれだけのお金が必要で、今日買ったものの値段とどれくらい違うのかを話し合った。金額を分かって、お釣りも考えて金種を用意できるメンバーもいれば、少しオーバーしてしまい買いな

おすメンバーもいた。日頃の習慣なのか、買い過ぎるというメンバーが少なく、余ったお金を貯金する人が多かったのは印象的であった。



本物のお金を使って買い物の練習



(4) 第4回宿プログラム③

■開催日程：2018年11月17日（土）～11月18日（日）

■開催場所：大阪YWCA、

社会福祉法人枚方療育園山西福祉記念会館（大阪市北区神山町11-12）

■出席人数：19名（うち、保護者・職員・講師・ボランティア計10名）

■実施内容

宿泊研修の3回目、日帰り研修を含めると4回目のプログラム。全体的に緊張感がほぐれ、初めはよそよそしかったメンバーたちも言葉を交わしたり、談笑したりする場面がちらほら見られるようになってきた。

【1日目・11月17日（土）】

●就労基礎実習②

ゲストが来たのであらためて一人ずつ自己紹介をした。何度か繰り返していることもあり、みな発表する姿がしっかりしてきた。



●先輩の話を聞く

「私を語る～プラス思考で生きる姿～」

昨年度のガールズSST参加者をゲストに迎え、SSTに参加した時のこと、アルバイトをした時の話などを聞かせてもらった。先輩によるギターの生演奏と歌の発表もあり、生き生きとした先輩の姿に勇気づけられたメンバーもいたようだ。普段はおとなしいメンバーが、お返しにと自らお気に入りの歌を披露する一場面もあった。

●就労体験実習④（メーキャップ講座）

協力：資生堂ジャパン株式会社

社会人の身だしなみとしてお化粧の仕方を習った。プロの実演により、メイクの効果が良く分かり、メイクだけではなく、身だしなみの大切さを学んだ。メイクに興味がないと終始一貫メイクしなかったメンバーもいたが、ほかのメンバーのサポートに回るという形で参加してくれた。



チーク一つで全体の印象がかわることも学んだ

歌やギター生演奏で緊張もほぐれた

●就労体験実習⑤（ホール業務）

協力：社会福祉法人枚方療育園

山西福祉記念会館・レストラン愛

ビッグ・アイでの実習とは配膳の仕方がちがうものの、指導者の話をよく聞き、積極的に参加していた。特に、テーブルに食器を置くことが難しく、何回か練習を重ねた。



●身の回りの生活トラブル対処法

ロールプレイングでいくつかのトラブル場面を体験し、対処法をみんなで考えた。具体的な場面を設定することで「自分だったらどうするか」を考えやすくした。



友達から「お金を貸してほしい」と言われ時の断わり方は？

●性のはなし②

性行為や妊娠について学んだ。最初は照れくささから茶化すような反応をしていたメンバーもいたが、最後は真剣に話を聞いていた。

[まとめ]

4回のプログラムを終えて、個々人の課題が具体的にになってきた。残すところあと2回だが、少しでもそこにアプローチできればと思う。

【2日目・11月18日（日）】

●就労体験実習⑥（清掃業務体験）

協力：社会福祉法人枚方療育園

山西福祉記念会館

宿泊したホテルにて、ベッドメイキング、ルームメイキングの一部を体験。まずはホテルのスタッフからレクチャーを受け、その後実際の作業をお手本として見学し、自分たちが宿泊した部屋を対象に実習した。シーツ交換など、一人では難しい作業だったため自然と共同作業になり、なかなかの重労働だったがなんとかやり遂げた。



上) 居室のルームメイクの指導を受けている様子



下) シーツ交換をやってみると、結構むずかしい！



(5) 第5回合宿プログラム④

■開催日程：2018年12月15日（土）～12月16日（日）

■訪問先：地域生活多機能拠点「いづかしの杜」（社会福祉法人淡路市社会福祉協議会）

就労移行支援事業所A型「べんとう屋」、就労移行支援事業所B型「なんでも屋」

「喫茶わいわいサンリッチ」（ひまわり作業所／社会福祉法人淡路市社会福祉協議会）

パルシェ香りの館、北淡震災記念公園、吹き戻しの里

■出席人数：29名（うち、保護者・職員・講師・ボランティア・パレットメンバー計20名）

■実施内容

合宿最終回となる今回は、グループ・パレットのメンバーと知り合い、仲間を作り、たくさんの人と楽しく過ごすことを目的に、淡路島へ出かけた。連携団体の呼びかけなどで集まった参加者やスタッフも含め総勢29名だった。

【1日目・12月15日（土）】

●体験プログラム①（グリコピア神戸）

グリコピア神戸で、お菓子の製作工程を見学した。工場ガイドによる説明を聞き、ボランティアとペアになって工場内を見学。お土産コーナーでは面白い物を楽しんだ。

●事業所訪問①

（地域生活多機能拠点「いづかしの杜」）

淡路市社会福祉協議会の協力で、就労移行支援事業所A型、B型の見学をした。また昼食を就労移行支援事業所A型の「べんとう屋」で調理をお願いした。



いづかしの杜の職員から施設の説明を聴く参加者（左）

●事業所訪問②（喫茶わいわいサンリッチ）

昼食後、同じく社会福祉協議会が運営する「ひまわり作業所」の喫茶わいわいサンリッチを訪問した。実際に働く現場を見せていただくとともに、SST参加者もホール業務の体験させていただくなどの体験をした。また、喫茶運営に関する質問にも対応してもらった。



●体験プログラム②（パルシェ香りの館）

手先が不器用な人も多いが、モノ作りを体験し、丁寧につくりあげる行程を学んだ。それぞれ個性あふれるキャンドルをととも真面目に取り組んで作り上げた。



色彩豊かなキャンドルに仕上がった

●体験プログラム③（吹き戻しの里）

「吹き戻し」の作り方を聞き、ボランティアとペアになって製作に取り組んだ。はじめは消極的だったメンバーもボランティアに助けをもらいながら、最後までやり通した。



「吹き戻し」作りにもチャレンジ！

【2日目・12月16日（日）】

●防災レクチャー①

北淡震災記念公園・野島断層保存館

障がいのある人にとってもしもの時、どうするのか。阪神淡路大震災について学ぶとともに、当時のお話や街や人々の様子などを聞き、また体験なども交えて学んだ。この学びをいかし、次回のプログラムで注意点などを学習する予定とした。



グループ・パレット*のメンバーといっしょに



*グループ・パレット

大阪YWCAにある、知的ハンディをもつ女性のための余暇活動グループのこと。

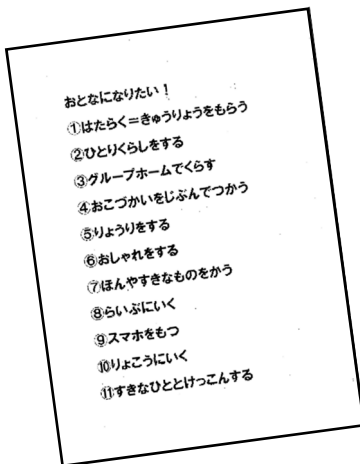


(6) 第6回デイプログラム②

- 開催日程：2019年1月19日（土）10：00～15：00
- 開催場所：大阪YWCA（大阪市北区神山町11-12）
- 出席人数：16名（うち、保護者・職員・講師・ボランティア計7名）

●就労面接実習②

最後の締めくくりとして、「自分のことを話す練習」を行った。さらに「私がガールズSSTに参加してよかったこと3つのこと」を書き出し、面接官が質問する形式で、面接練習を繰り返した。また、ワークシート「おとなになりたい！」を使って、夢として大人になってやりたいことはどんなことか、11項目の順位を自分でよく考え、番号をつけた。



ワークシート「おとなになりたい！」

●食事の作法③

最後の実習として、自分でメニューを決めて注文することを体験した。レストランの店員に大きな声ではっきりと伝えることができた。ガールズSSTとしては最後の食事だったこともあり、和やかな雰囲気だった。

●防災レクチャー②

～防災と安全を学ぶ～

まず、災害の中でも特に地震について取り上げた。「自分の身を守る」ことを念頭に、普段から準備しておく必要があることを学んだ。例として、食料や飲み物の備蓄、薬の余分を持っておく、など。次に、知らない人から声をかけられたときにどのように対応するかについて学習した。「いや！（NOという）」、「（無視して）逃げる」、「（被害にあったことを誰かに）話す」の3点について寸劇をしながら学習した。



テーブルマナーを学びながら楽しく食事

●保護者学習会

これまでデイプログラム1回、合宿プログラム4回での成果を、パワーポイントを見せながら保護者に説明をした。また、参加者が就労面接実習②で使ったワークシート「おとなになりたい!」の結果をそれぞれの保護者に見てもらった。「仕事をしたい」を上位に書いた参加者が多く、就労実習を重ね、大人になることは楽しいこと、自分らしく生きていくことができると伝えてきた結果だと考えられる。保護者には、成長と発展を見守りつつ、次のステップを見守ってもらいたいと伝えた。

<参加者>

●就労体験実習⑦

接遇～お茶の入れ方、出し方～

「お客様をもてなす」とはどういうことか。お煎茶の入れ方、お客様へのお茶の出し方を一人ひとり練習をした。また特別な日には、お抹茶を入れてお客様をもてなす、お茶道具を大切に扱うということも学んだ。立礼の作法を見た後に、お抹茶を立てる体験も行なった。



初めてお茶道具に触れ
緊張気味の参加者

●修了式

保護者も出席し、修了式を行なった。参加者にはガールズSST修了証書と記念品が授与された。



一人ひとりに修了証書が手渡された

保護者

本人

合宿①アンケート（配布 10 名、回収 10 名）	合宿①アンケート（配布 10 名、回収 10 名）
<p>(1) お子さんの合宿に参加されるまでの様子を教えてください。</p> <p><input type="checkbox"/> とても楽しみにしていた 4名 <input type="checkbox"/> 楽しみにしていた 3名 <input type="checkbox"/> 特に何も無い 2名 <input type="checkbox"/> 少し嫌がっていた 1名 <input type="checkbox"/> とても嫌がっていた</p>	<p>(1) 合宿は楽しかったですか。</p> <p><input type="checkbox"/> とても楽しかった 5名 <input type="checkbox"/> 楽しかった 5名 <input type="checkbox"/> 特に何も無い <input type="checkbox"/> 楽しくなかった <input type="checkbox"/> 全然楽しくなかった</p>
<p>(2) お子さんの合宿に参加された後の様子を教えてください。</p> <p><input type="checkbox"/> とても満足していた 3名 <input type="checkbox"/> 満足していた 5名 <input type="checkbox"/> 特に何も無い 1名 <input type="checkbox"/> 不満だった 1名 <input type="checkbox"/> とても不満だった</p>	<p>(2) あなたの役に立つと思ったものを選んでください。 (答えはいくつでも選べます)</p> <p><input type="checkbox"/> コミュニケーション・トレーニング（自己紹介と仲間作り） 2名 <input type="checkbox"/> スマホやケータイとのつきあい方 6名 <input type="checkbox"/> 食事の作法 5名 <input type="checkbox"/> みだしなみと服装について 7名 <input type="checkbox"/> コミュニケーション・トレーニング（トーキングゲーム） 4名 <input type="checkbox"/> 就労体験実習（清掃業務体験） 6名 <input type="checkbox"/> お金の話 4名 <input type="checkbox"/> その他 2名</p>
<p>(3) このプログラムに参加している期間に、ご家庭で何か意識して取り組もうとしていることがありますか。（複数回答可）</p> <p><input type="checkbox"/> 性のはなし 3名 <input type="checkbox"/> お金の話 7名 <input type="checkbox"/> 携帯・スマホの話 4名 <input type="checkbox"/> テーブルマナー 1名 <input type="checkbox"/> あいさつ 4名 <input type="checkbox"/> 身だしなみ 8名 <input type="checkbox"/> 災害時の取り決め 2名 <input type="checkbox"/> 家庭での手伝い 3名 <input type="checkbox"/> その他 1名</p>	<p>(3) 全体をとおして、一番印象に残ったことはどんなことですか。</p> <p><input type="checkbox"/> コミュニケーション・トレーニング（自己紹介と仲間作り） 2名 <input type="checkbox"/> スマホやケータイとのつきあい方 2名 <input type="checkbox"/> 食事の作法 <input type="checkbox"/> みだしなみと服装について 3名 <input type="checkbox"/> コミュニケーション・トレーニング（トーキングゲーム） 2名 <input type="checkbox"/> 就労体験実習（清掃業務体験） 1名 <input type="checkbox"/> お金の話 2名 <input type="checkbox"/> その他 1名</p>
<p>(4) 今後、お子さんの自立に向けて、どのような情報や機会があればよいと思われますか。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの自立に向けた保護者向けのセミナー 3名 <input type="checkbox"/> 就労実習 4名 <input type="checkbox"/> 仲間づくり 7名 <input type="checkbox"/> 金銭教育 4名 <input type="checkbox"/> コミュニケーション講座 4名 <input type="checkbox"/> その他 1名</p>	<p>(4) 全体の中で、あなたにとって一番役に立ちそうなことはどんなことですか。</p> <p><input type="checkbox"/> コミュニケーション・トレーニング（自己紹介と仲間作り） 3名 <input type="checkbox"/> スマホやケータイとのつきあい方 <input type="checkbox"/> 食事の作法 <input type="checkbox"/> みだしなみと服装について 3名 <input type="checkbox"/> コミュニケーション・トレーニング（トーキングゲーム） 3名 <input type="checkbox"/> 就労体験実習（清掃業務体験） 2名 <input type="checkbox"/> お金の話 2名 <input type="checkbox"/> その他</p>

保護者

本人

合宿②アンケート（配布8名、回収8名）	合宿②アンケート（配布8名、回収8名）
<p>(1) お子さんの合宿に参加されるまでの様子を教えてください。</p> <p><input type="checkbox"/>とても楽しみにしていた 3名 <input type="checkbox"/>楽しみにしていた 4名 <input type="checkbox"/>特に何も無い 1名 <input type="checkbox"/>嫌がっていた <input type="checkbox"/>とても嫌がっていた</p>	<p>(1) 合宿は楽しかったですか。</p> <p><input type="checkbox"/>とても楽しかった 4名 <input type="checkbox"/>楽しかった 4名 <input type="checkbox"/>特に何も無い <input type="checkbox"/>楽しくなかった <input type="checkbox"/>全然楽しくなかった</p>
<p>(2) お子さんの合宿に参加された後の様子を教えてください。</p> <p><input type="checkbox"/>とても満足していた 2名 <input type="checkbox"/>満足していた 5名 <input type="checkbox"/>特に何も無い 1名 <input type="checkbox"/>不満だった <input type="checkbox"/>とても不満だった</p>	<p>(2) あなたの役に立つと思ったものを選んでください。 (答えはいくつでも選べます)</p> <p><input type="checkbox"/>就労面接実習 7名 <input type="checkbox"/>就労体験実習（ホール業務体験） 2名 <input type="checkbox"/>食事の作法 3名 <input type="checkbox"/>性のはなし 2名 <input type="checkbox"/>就労体験実習（清掃業務体験） 4名 <input type="checkbox"/>お金の話 5名 <input type="checkbox"/>その他</p>
<p>(3) このプログラムに参加している期間に、ご家庭で何か意識して取り組んだことがありましたか。 (複数回答可)</p> <p><input type="checkbox"/>性のはなし 1名 <input type="checkbox"/>お金の話 2名 <input type="checkbox"/>携帯・スマホの話 2名 <input type="checkbox"/>テーブルマナー 1名 <input type="checkbox"/>あいさつ 3名 <input type="checkbox"/>身だしなみ 4名 <input type="checkbox"/>災害時の取り決め 1名 <input type="checkbox"/>家庭での手伝い 3名 <input type="checkbox"/>その他 1名</p>	<p>(3) 全体をとおして、一番印象に残ったことはどんなことですか。</p> <p><input type="checkbox"/>就労面接実習 2名 <input type="checkbox"/>就労体験実習（ホール業務体験） <input type="checkbox"/>食事の作法 <input type="checkbox"/>性のはなし 3名 <input type="checkbox"/>就労体験実習（清掃業務体験） <input type="checkbox"/>お金の話 1名 <input type="checkbox"/>その他 1名</p>
	<p>(4) 全体の中で、あなたにとって一番役に立ちそうなことはどんなことですか。</p> <p><input type="checkbox"/>就労面接実習 3名 <input type="checkbox"/>就労体験実習（ホール業務体験） <input type="checkbox"/>食事の作法 <input type="checkbox"/>性のはなし 1名 <input type="checkbox"/>就労体験実習（清掃業務体験） 1名 <input type="checkbox"/>お金の話 2名 <input type="checkbox"/>その他 1名</p>

保護者

本人

合宿③アンケート（配布9名、回収8名）	合宿③アンケート（配布9名、回収9名）
<p>(1) お子さんの合宿に参加されるまでの様子を教えてください。</p> <p><input type="checkbox"/>とても楽しみにしていた 2名 <input type="checkbox"/>楽しみにしていた 3名 <input type="checkbox"/>特に何も無い 3名 <input type="checkbox"/>嫌がっていた <input type="checkbox"/>とても嫌がっていた</p>	<p>(1) 合宿は楽しかったですか。</p> <p><input type="checkbox"/>とても楽しかった 4名 <input type="checkbox"/>楽しかった 5名 <input type="checkbox"/>特に何も無い <input type="checkbox"/>楽しくなかった <input type="checkbox"/>全然楽しくなかった</p>
<p>(2) お子さんの合宿に参加された後の様子を教えてください。</p> <p><input type="checkbox"/>とても満足していた 3名 <input type="checkbox"/>満足していた 3名 <input type="checkbox"/>特に何も無い 2名 <input type="checkbox"/>不満だった <input type="checkbox"/>とても不満だった</p>	<p>(2) あなたの役に立つと思ったものを選んでください。 (答えはいくつでも選べます)</p> <p><input type="checkbox"/>就労基礎実習 3名 <input type="checkbox"/>就労体験実習（メーカー） 5名 <input type="checkbox"/>先輩の話を聞く 6名 <input type="checkbox"/>就労体験実習（ホール業務体験） 1名 <input type="checkbox"/>食事の作法 1名 <input type="checkbox"/>性のはなし 5名 <input type="checkbox"/>就労体験実習（清掃業務体験） 4名 <input type="checkbox"/>身の回りの生活トラブル対処法 6名 <input type="checkbox"/>その他</p>
<p>(3) このプログラムに参加している期間に、ご家庭で何か意識して取り組んでいることがありますか。 (複数回答可)</p> <p><input type="checkbox"/>性の話 4名 <input type="checkbox"/>お金の話 5名 <input type="checkbox"/>携帯・スマホの話 5名 <input type="checkbox"/>テーブルマナー 2名 <input type="checkbox"/>あいさつ 6名 <input type="checkbox"/>身だしなみ 7名 <input type="checkbox"/>災害時の取り決め 2名 <input type="checkbox"/>家庭での手伝い 5名 <input type="checkbox"/>その他</p>	<p>(3) 全体をとおして、一番印象に残ったことはどんなことですか。</p> <p><input type="checkbox"/>就労基礎実習 <input type="checkbox"/>就労体験実習（メーカー） 2名 <input type="checkbox"/>先輩の話を聞く 4名 <input type="checkbox"/>就労体験実習（ホール業務体験） 1名 <input type="checkbox"/>食事の作法 <input type="checkbox"/>性のはなし 1名 <input type="checkbox"/>就労体験実習（清掃業務体験） 2名 <input type="checkbox"/>身の回りの生活トラブル対処法 3名 <input type="checkbox"/>その他 1名</p>
	<p>(4) 全体の中で、あなたにとって一番役に立ちそうなことはどんなことですか。</p> <p><input type="checkbox"/>就労基礎実習 1名 <input type="checkbox"/>就労体験実習（メーカー） 4名 <input type="checkbox"/>先輩の話を聞く <input type="checkbox"/>就労体験実習（ホール業務体験） 1名 <input type="checkbox"/>食事の作法 <input type="checkbox"/>性のはなし <input type="checkbox"/>就労体験実習（清掃業務体験） 3名 <input type="checkbox"/>身の回りの生活トラブル対処法 3名 <input type="checkbox"/>その他</p>

保護者

本人

合宿④アンケート（配布9名、回収7名）	合宿④アンケート（配布9名、回収9名）
<p>(1) お子さんの合宿に参加されるまでの様子を教えてください。</p> <p><input type="checkbox"/>とても楽しみにしていた 6名</p> <p><input type="checkbox"/>楽しみにしていた</p> <p><input type="checkbox"/>特に何も無い 1名</p> <p><input type="checkbox"/>嫌がっていた</p> <p><input type="checkbox"/>とても嫌がっていた</p>	<p>(1) 合宿は楽しかったですか。</p> <p><input type="checkbox"/>とても楽しかった 7名</p> <p><input type="checkbox"/>楽しかった 2名</p> <p><input type="checkbox"/>特に何も無い</p> <p><input type="checkbox"/>楽しくなかった</p> <p><input type="checkbox"/>全然楽しくなかった</p>
<p>(2) お子さんの合宿に参加された後の様子を教えてください。</p> <p><input type="checkbox"/>とても満足していた 7名</p> <p><input type="checkbox"/>満足していた</p> <p><input type="checkbox"/>特に何も無い</p> <p><input type="checkbox"/>不満だった</p> <p><input type="checkbox"/>とても不満だった</p>	<p>(2) 全体をとおして、印象に残ったことを選んでください。（答えはいくつでも選べます）</p> <p><input type="checkbox"/>体験プログラム（工場見学） 2名</p> <p><input type="checkbox"/>事業所訪問（いづかしの杜） 2名</p> <p><input type="checkbox"/>事業所訪問（喫茶サンリッチ） 2名</p> <p><input type="checkbox"/>体験プログラム（ジェルキャンドル作り） 7名</p> <p><input type="checkbox"/>参加者交流会 6名</p> <p><input type="checkbox"/>防災レクチャー（北淡震災記念公園） 4名</p> <p><input type="checkbox"/>体験プログラム（吹き戻し作り） 4名</p> <p><input type="checkbox"/>その他 3名</p>
<p>ご意見・ご感想（抜粋）</p> <p>(1) 合宿①アンケートより</p> <p><input type="checkbox"/>色々な仕事を実際に見学する機会があればと思う</p> <p><input type="checkbox"/>合宿後も引き続き親子別々で話ができる場が欲しい</p> <p>(2) 合宿②アンケートより</p> <p><input type="checkbox"/>「仕事」について少し意識できつつあるようだ</p> <p><input type="checkbox"/>普段出かけることがないので、外出すること自体が楽しいようだ</p> <p>(3) 合宿③アンケートより</p> <p><input type="checkbox"/>自宅にいるより皆と学ぶことで感じることも多く、「仕事をする」という気持ちが出てきている</p> <p><input type="checkbox"/>このプログラムに参加してから、お小遣い帳のお金が合うようになった</p> <p><input type="checkbox"/>約束をして一緒に出かけられる友達ができ、大変嬉しく思う</p> <p>(4) 合宿④アンケートより</p> <p><input type="checkbox"/>「仕事」や「身だしなみ」、「身の回りのこと」を皆と学び、生活することで意識できたようだ</p> <p><input type="checkbox"/>このプログラムに参加してから、少し自立心が出てきた</p> <p><input type="checkbox"/>同様の取り組みがあればまた参加させたい</p>	

親と本人の相談事業

「生きづらさ、特性、障がいを抱えた若者（10～30代）の自立・就労応援プログラム」

このプログラムは、子どもに特性がある、障がいがあって子どもの将来に悩んでいる、生きづらさを抱え仕事につけない、働きたいと思うが何から手をつけていいかわからない、そんな悩みを抱えている親や当事者のための、ケースにあわせたオーダーメイド型相談事業である。

■開催日程：2018年7月～2019年3月 1人につき計8回

■開催場所：梅田相談室→大阪YWCA（大阪市北区神山町11-12）

鶴橋・玉造相談室→eトコ・プロジェクト（大阪市東成区東小橋2-5-32）

千里相談室→大阪YWCA千里（吹田市古江台3-9-3）

■申込み数：16件（うち2件当日キャンセル）

■対象：生きづらさ、特性、障がいを抱えながらも就労をめざす、子ども・若者本人・保護者

■費用：8回8,000円

■相談員：社会福祉士、産業カウンセラー、特別支援教育士

■実施内容：1. 相談を受けた数 14件

2. 相談場所 梅田相談室7件、鶴橋・玉造相談室5件、千里相談室2件

3. 同行支援 5箇所

4. ケース会議 延5回 出席者数延37名



ケース検討会の様子

■アンケートまとめ

保護者

事前アンケート（配布14名、回収13名）	事後アンケート（配布11名、回収7名）
<p>(1) お子さんが就労することについて、今はどんなイメージを持っていますか？</p> <p><input type="checkbox"/>イメージがもてない 4名</p> <p><input type="checkbox"/>イメージは何となくもっている 2名</p> <p><input type="checkbox"/>はっきりとイメージできる 2名</p> <p><input type="checkbox"/>わからない 5名</p>	<p>(1) この相談事業であなたはお子さんの就労について具体的なイメージができましたか？</p> <p><input type="checkbox"/>まだイメージができない 2名</p> <p><input type="checkbox"/>何となくイメージがもてるようになった 4名</p> <p><input type="checkbox"/>はっきりとイメージできた</p> <p><input type="checkbox"/>わからない 1名</p>

保護者

事前アンケート（配布 14 名、回収 13 名）	事後アンケート（配布 11 名、回収 7 名）
<p>（2）お子さんが就労することについて、あなたの今の気持ちを表すとしたら、下のどれに近いか教えてください。</p> <p><input type="checkbox"/>不安は感じない 3名 <input type="checkbox"/>不安だがチャレンジしてほしい 3名 <input type="checkbox"/>やや不安 3名 <input type="checkbox"/>不安でいっぱい 4名 <input type="checkbox"/>その他</p>	<p>（2）お子さんが就労することについて、相談終了後、あなたの今の気持ちを表すとしたら、下のどれに近いか教えてください。</p> <p><input type="checkbox"/>不安は感じないようになった 2名 <input type="checkbox"/>不安だがチャレンジしてほしいと思えるようになった 3名 <input type="checkbox"/>やや不安がある 1名 <input type="checkbox"/>不安でいっぱいの気持ちは変わらない <input type="checkbox"/>その他 1名</p>
<p>（3）お子さんが就労する時期について、何か考えがあれば教えてください。</p> <p><input type="checkbox"/>すぐに働いてほしい 1名 <input type="checkbox"/>いい仕事が見つかったら、働いてほしい 4名 <input type="checkbox"/>いつかはわからないが、いずれ働いてほしい 5名 <input type="checkbox"/>今は無理だと思う <input type="checkbox"/>わからない 1名 <input type="checkbox"/>その他 1名</p>	<p>（3）お子さんが就労する時期について、何か考えが変化したことがあれば教えてください。</p> <p><input type="checkbox"/>すぐに働いてほしいと思うようになった <input type="checkbox"/>いい仕事が見つかったら、働いてほしいと思うようになった 3名 <input type="checkbox"/>いつかはわからないが、いずれ働いてほしいと思うようになった 2名 <input type="checkbox"/>今は無理だということがわかった 1名 <input type="checkbox"/>わからない <input type="checkbox"/>その他 1名</p>
<p>（4）この相談に期待することを教えてください。 （複数回答可）</p> <p><input type="checkbox"/>進路についての、不安な気持ちをやわらげたい 1名 <input type="checkbox"/>子どもにはどんな仕事に向いているのか、能力や特性を知りたい 4名 <input type="checkbox"/>就労について、制度や手続き等について知りたい 2名 <input type="checkbox"/>就労を支援する相談機関や、相談員とつながりたい 2名 <input type="checkbox"/>どんな就労先があるのか知りたい 3名 <input type="checkbox"/>就労先をどのように見つけたらよいか、一緒に考えたり同行してほしい 3名 <input type="checkbox"/>将来のことや、就労のことを一緒に考えてほしい 6名 <input type="checkbox"/>自立に向けて、具体的な計画（ライフプラン）を作りたい 3名 <input type="checkbox"/>学校以外の居場所を、見つける助けをしてほしい 4名 <input type="checkbox"/>その他 2名</p>	<p>（4）この相談事業に参加したことによって、お子さんの就労に良い変化が期待できそうですか。</p> <p><input type="checkbox"/>とてもそう思う 2名 <input type="checkbox"/>そう思う 3名 <input type="checkbox"/>そう思わない <input type="checkbox"/>全くそう思わない 1名</p>
	<p>（5）この相談事業の内容全般について、ご満足いただけましたか。</p> <p><input type="checkbox"/>とても満足 3名 <input type="checkbox"/>満足 4名 <input type="checkbox"/>やや不満足 <input type="checkbox"/>不満足</p>

本人

事前アンケート (配布 8 名、回収 7 名)	事後アンケート (配布 7 名、回収 4 名)
<p>1. これからの生活の中で、「働く」ことも大切なテーマです。「働く」ことにもいろいろな形があります。</p>	<p>1. あなたはこのプログラムで、近い将来のイメージをもつことができましたか。</p>
<p>(1) あなたは働くことについて、どんなイメージがありますか？</p> <p><input type="checkbox"/> イメージがもてない</p> <p><input type="checkbox"/> イメージは何となくもっている 5 名</p> <p><input type="checkbox"/> はっきりとイメージできる 1 名</p> <p><input type="checkbox"/> わからない 1 名</p>	<p><input type="checkbox"/> はっきりとイメージできる 1 名</p> <p><input type="checkbox"/> イメージは何となくもっている 3 名</p> <p><input type="checkbox"/> イメージがもてない</p> <p><input type="checkbox"/> わからない</p>
<p>(2) あなたは働くことを考えるときどんな気持ちになりますか？あなたの気持ちは下のどれに近いか教えてください。</p> <p><input type="checkbox"/> 不安は感じない</p> <p><input type="checkbox"/> 不安だがチャレンジしたい 4 名</p> <p><input type="checkbox"/> やや不安 1 名</p> <p><input type="checkbox"/> 不安でいっぱい 2 名</p> <p><input type="checkbox"/> その他</p>	<p>2. 「働く」ことについて質問します。</p> <p>(1) このプログラムに参加して、あなたは働くことについてイメージすることができるようになりましたか。</p> <p><input type="checkbox"/> イメージがもてない 1 名</p> <p><input type="checkbox"/> イメージは何となくもっている 3 名</p> <p><input type="checkbox"/> はっきりとイメージできる</p> <p><input type="checkbox"/> わからない</p>
<p>(3) 働く時期についてあなたはどんなイメージがありますか？</p> <p><input type="checkbox"/> すぐに働きたい 1 名</p> <p><input type="checkbox"/> いい仕事が見つかったら働きたい 2 名</p> <p><input type="checkbox"/> いつかはわからないが、いずれ働きたい 2 名</p> <p><input type="checkbox"/> 今の自分には無理だと思う 1 名</p> <p><input type="checkbox"/> わからない</p> <p><input type="checkbox"/> その他 1 名</p>	<p>(2) このプログラムに参加して、あなたは働くことを考えるときどんな気持ちになりましたか？あなたの気持ちは下のどれに近いか教えてください。</p> <p><input type="checkbox"/> 不安は感じない</p> <p><input type="checkbox"/> 不安だがチャレンジしたい 3 名</p> <p><input type="checkbox"/> やや不安</p> <p><input type="checkbox"/> 不安でいっぱい 1 名</p> <p><input type="checkbox"/> その他</p>
<p>2. あなたがこの相談に期待することは何ですか？(答えはいくつでも選べます)</p> <p><input type="checkbox"/> 進路についての不安な気持ちをやわらげたい 2 名</p> <p><input type="checkbox"/> 自分にはどんな仕事に向いているのか知りたい 3 名</p> <p><input type="checkbox"/> 働くことについてのきまりや制度について知りたい 2 名</p> <p><input type="checkbox"/> 就労を支援する相談機関や相談員とつながりたい 3 名</p> <p><input type="checkbox"/> どんな就労先があるのか知りたい 2 名</p> <p><input type="checkbox"/> 就職活動を一緒にしてほしい 1 名</p> <p><input type="checkbox"/> 将来のことや就労のことを一緒に考えてほしい 2 名</p> <p><input type="checkbox"/> 自立に向けての具体的な計画 (ライフプラン) を作りたい 2 名</p> <p><input type="checkbox"/> 学校以外の居場所を作りたい 2 名</p> <p><input type="checkbox"/> その他 1 名</p>	<p>(3) このプログラムに参加して、働く時期についてあなたはどんなイメージがありますか？</p> <p><input type="checkbox"/> すぐに働きたい 1 名</p> <p><input type="checkbox"/> いい仕事が見つかったら働きたい 2 名</p> <p><input type="checkbox"/> いつかはわからないが、いずれ働きたい 1 名</p> <p><input type="checkbox"/> 今の自分には無理だと思う</p> <p><input type="checkbox"/> わからない</p> <p><input type="checkbox"/> その他</p>

Aさんの事例より ～ガールズSSTと相談事業を通して～

Aさんと初めて会ったのは、ガールズSSTの初日でした。ダウン症のAさんは2002年生まれの16歳でしたが、小学生と言っても通るくらい小柄で可愛い少女でした。

ガールズSSTは「特別な支援を必要としつつも就職をめざしていこうとする人が、社会生活に必要な知識や生活スキルを学び、実習で就労を体験する」というプログラムだったため、当初、余りに幼い印象のAさんが果たしてこのプログラムについていけるのか私達スタッフは心配しました。

案の定、最初の自己紹介を兼ねた「コミュニケーション・トレーニング」では丸く輪になって座った隣のメンバーにボールを手渡すというルールに従えず、反対側のメンバーに向かってボールを勢いよく投げてしまったり、「好きな色は？」の問いにいろいろな色の名前を立て続けに言ったりしていました。

しかし、みんなの声かけに「はい」と大きな声で返事をしたり「やってみます」「頑張りまーす」と明るく反応する様子から、Aさんが人と交わることが大好きで、何に対してもものおじせず意欲的に取り組む積極性をもっていることが感じられました。

ガールズSSTは、初回と最終回以外全て宿泊を伴う合宿形式でプログラムを行います。Aさん

が合宿形式のトレーニングを受けるにあたり、食事や入浴など、生活面でも特別な支援が必要になることが予測されたことと、お母さんもAさんの就労にむけての支援を希望されたことから、SSTと並行して相談事業を行うことになりました。

Aさんのおいたち

相談事業ではまず、成育歴の聞き取りをしました。Aさんはお母さんが37歳の時のこどもで、4歳年上の兄と4歳年下の弟がいます。産まれたばかりの頃、Aさんはミルクも欲しがらず寝てばかりだったので、お母さんは「女の子を育てるのはなんて楽なんだろう」と思っていたそうです。けれど、どんどん体重が落ちていくので心配になり受診したところ、医者から「一度検査させてほしい」と言われて総合病院で検査を受けダウン症で心臓に穴が空いていること、生まれつき目が見えていないことが解りました。医師からは、どちらも手術をしなければ治らない、特に目は早めに手術をしなければ見ようとする脳が育たないといわれ、生後二か月半で心臓の手術をし、その後目の手術をしました。Aさんは産まれてからの1年間の大半を病院で過ごしたそうです。

つたい歩きを始める前の高這い期が長く、5歳で手を繋いでもらうと歩けるようになりましたが、椅子に自力で座っていることができず、小学

校入学時には特別な補助具を使って椅子に座っていたそうです。

小中学校は地元の学校の支援学級に通っていました。原学級の担任や支援学級の先生が熱心にかかわってくれ、目が悪いAさんのために特別に大きな文字の絵本を作るなどの配慮をしてくれたそうです。明るくてひとなつこいAさんは友達との関係も良く、学校では人気者だったようです。

家ではお母さんやお祖母さんと一緒に毎日1時間の散歩をしたり、障がいを持つ人のためのアートスクールやスイミング、スポーツ教室・ダンス教室にも通って活動的に過ごしていました。お母さんは「勉強はできなくてもいいから何か好きなことを見つけてほしい」という思いから、色々なことが体験できるようにしてきたそうです。

このガールズSSTにもお母さんのそんな願いから参加しました。お母さんは「何か新しいことにチャレンジしてほしい」という気持ちと「うちの子には無理かもしれない」と迷う気持ちがありました。が、この事業を紹介してくれた区の担当者の「Aちゃんなら大丈夫だし、YWCAなら受け入れてくれると思うよ」ということばに背中を押されたと話していました。

壁をのりこえるために

身体面でハンディがあり、知的な面でもかなり遅れがありますが、Aさんの無邪気でひとなつこい特性を大切に伸ばそうとする家族の意向と、地域の受け入れの良さから、Aさんは小中学校を地

元で過ごしました。そして高校進学にあたり、支援学校の高等部ではなく高等専修学校を選びました。

お母さんはそこで「本人も私も初めてと云っていいくらいの大きな壁にぶつかりました」と言います。Aさんが進学した専修学校は、一般的な高等学校の授業に加え、パソコン、自動車、ネイル、メイク、調理等の職業訓練や資格取得に特化したカリキュラムがあり、不登校傾向や障がいのある生徒に配慮したクラス、授業が設けられていました。卒業後の進学・就職を見据えて、一年時から進路相談もあります。手厚い進路指導を行うのが、この学校のセールスポイントなのですが、その指導がお母さんにとっては「本人のできてないことばかりを指摘されて、自分の子育てを否定されたように感じられた」そうです。お母さんの話から、私達はAさんの障がいや発達段階を正しくとらえることが大切だと考え、お母さんの面談と並行してAさんの発達検査を細かく行うことにしました。

大阪YWCAには、かつて「ことばの学校」という発達の遅れがある子ども達を対象にした事業がありました。1980年の国際障害者年に始まった福祉プログラムでした。広汎性発達障がいという診断名もまだなく、言語聴覚士という専門職もうまれる以前に、こどもの育ちの中で注目されやすく、ある意味お母さん達の一番の悩み種にもなる「ことばの遅れ」を切り口に、ひとりひとりのこどもの成長に細やかにじっくりと時間をか

けて取り組む画期的な事業でした。児童精神科医の山口俊郎氏（兵庫教育大学）の指導の下、その子の特性をつかみ発達に合わせた個別の療育課題を設定し、スタッフとこどもが一对一で課題に取り組みました。そこで行っていた発達検査を相談事業の一環として行ったのです。

その結果、個別のゆっくりした対応を重ねていくことがAさんの成長には大切で、人との交わりの中であまりたくさんを身につけていく伸びしろがあることが解りました。実際、ゲームSS Tで回を重ね皆と一緒に行動するなかで、Aさんは最初は難しかった清掃等の作業ができるようになったり、自分の身だしなみにも関心を持つようになりました。合宿の後、自分で髪を乾かしブラッシングするAさんを見て、お母さんは「あんなに、家で繰り返し教えてもできなかったのに」と感動したそうです。

Aさんのこれから

Aさんに高等専修学校卒業後も今まで通り地域で、人とのつながりの中で暮らしてほしいと願っていたお母さんは、就労先についても不安をもっていました。見学や実習にいった先は殆どが、地域との交流が少なかったり、単純作業を繰り返すことが多い事業所だったそうです。

そこで私達は、先に述べた「ことばの学校」でグループ体操を指導していた松井洋子氏が立ち上げた、生活介護事業所を紹介することにしました。そこは「芸術への取り組みが、豊かに生きる

力になる」という考えのもと、障がい者の基本的な身辺自立とさまざまな芸術的表現への取り組みを行っている事業所です。

もともとダンスや歌が大好きだったAさんはこの事業所の雰囲気ですぐになじみました。毎日丁寧に行われている買い物・調理・入浴等の生活のスキルを身につけるプログラムもAさんの特性にピッタリのものでした。Aさんは実習や体験の形でこの事業所を定期的に利用することになりました。

このAさんの事例を通して、私達は改めて、個人の特性や発達・家庭環境や育ちのプロセスに合わせた個別の支援が大切であることを実感しました。まさに「オーダーメイド」の伴走型支援ができた満足しています。

一方、相談ケースはすべてがAさんのような成功事例ばかりではなく、最適な社会資源につなげることができなかつたり、本人がまだ次のステップに踏み出せないケースもありました。

今回は助成をうけての事業でしたので期限付きの相談事業になりましたが、本来、こういった支援に期限をつくること自体が適切ではありません。この事業を今後、YWCAのなかで継続してどんな風に取り組んでいくのが、私達にとっての大きな課題となっています。

社会福祉士：辻川 さとみ

この原稿は相談当事者の許可をいただいて掲載しています。

配布資料

おはようシート

日にち _____ 名前 _____

昨日は寝れましたか？

全然寝れなかった ← まあまあ → ぐっすり！

朝ごはんを食べましたか？

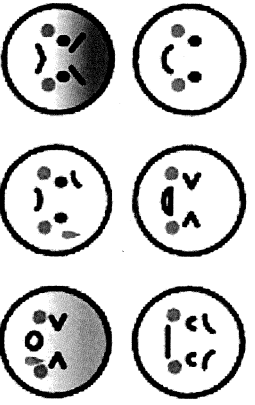
何も食べてない ← いくらか食べた → しっかり食べた

体の調子はどうですか？

とてもいい ← まあまあ → 元気！

今の気分は？

とてもいい ← まあまあ → 元気！



今日の目標

スタックに伝えたいこと

おやすみシート

日にち _____ 名前 _____

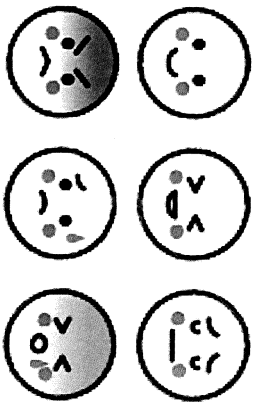
ごはんを食べましたか？

何も食べてない ← いくらか食べた → しっかり食べた

体の調子はどうですか？

とてもいい ← まあまあ → 元気！

今の気分は？



スタックに伝えたいこと。

スタックに伝えたいこと。

おおさか
2018.9.22大阪YWCAガールズSST

みだしなみ

「みだしなみ」とは「^{ひと}人にふゆかいな^{おも}思いをさせないように^{ふくそう}服装などに^き気をくばる」ことで、^{おとな}大人として、^{しゃかいじん}社会人となるときには、よい^{いんしょう}印象を^{あた}与える「みだしなみ」が^{もと}求められます。では、よい「みだしなみ」とはどのようなものでしょうか。

しゃかいじん まいにち み 社会人の毎日の身だしなみ チェックポイント

チェックするところ	ほうほう 方法
かみ け 髪 の毛 ※ ^{さんぱつ} 散髪は ^{ていきてき} 定期的に行い ^{おこな} ましよう。 ^{かげつ} (2ヶ月に ^{かい} 1回など ^{きめ} 決めておく ^{らく} と ^{たのしみ} です。)	① ^{かみ け} ブラシ(くし)で ^{かみ け} 髪 ^{の毛} をと ^か す。 ② ^{せいはいつりょう} 整髪料(スプレーやムース)は ^{にお} 臭いが ^{すこ} 少ないものか ^{すこ} 少しだけ ^{にお} 臭いの ^{すこ} するものにする。 ③ ^{フケ} がついていないか。 ④ ^{まえがみ} 前髪が ^め 目に入る ^{なが} 長さであれば、 ^{ピン} ピンや ^{ゴム} ゴムなどで ^と とめる。 ⑤ ^{かた} 肩にかかる ^{いじょう} 以上の ^{なが} 長さは ^{くろ} 黒・ ^{ちゃ} 茶・ ^{こん} 紺)で ^と とめる。
は 歯	はみが 歯磨きをする。
め 目	かお あら 顔を洗うときに、 ^め 目やに ^{かくにん} がついていないか ^{かくにん} 確認する。
めがね	ホコリ、 ^{よご} 汚れ、 ^{かくにん} くもりなどが ^{かくにん} ないか ^{かくにん} 確認する。
むだ毛 け	かお 顔などの ^め よく ^め 目立つ ^{ちゆうい} ところは ^{とく} 注意する(特に ^{はなげ} 鼻毛)
したぎ 下着	せんたく 洗濯したものを ^{まいにち} つけ、 ^{とり} 毎日 ^か 取り替える。
ふく 服 (^{せいけつ} せいけつ ^{かん} 感がある)	① ^{ボタン} ボタンが ^と とれていたり、 ^と とれかけていないか ^{かくにん} 確認する。 ② ^{にお} 臭い・ ^{よご} 汚れがないか。 ^{せいけつ} 清潔なものを ^み 身につける。 (シャツの ^{えり} 襟や ^{そでぐち} 袖口が ^{よご} 汚れていないか。) ③ ^{シャツ} シャツは ^{アイロン} アイロンが ^け けられている。 ④ ^{かた} 肩や ^せ 背に ^{フケ} フケがついていないか ^{かくにん} 確認する。

チェックするところ	ほうほう 方法
ふく 服	⑤ポケットにふくらんで目立つようなものは入れない。 ⑥ズボン・スカートのファスナーをとじる。 ⑦折り目のあるものは、アイロンでしっかり折り目をつける。
くつ 靴	よご 汚れ、くもり、ひもの結びを確認する。
て 手	つめ しろ ぶぶん 爪の白い部分が1mm以上伸びていたら切る。
ストッキング	あな でんせん 穴や伝線がないか確認する。
メイク	けんこうてき しぜん 健康的にみえる、自然なメイクにする。(11月に勉強します)

じかん ばしょ ばあい
時間・場所・場合にあっている服装をする。

てき
きのう的である。

- ①動きやすいこと
- ②しごとに集中できること
- ③けがをするきけんがないこと

おしゃれとみだしなみはちがいます。

おしゃれは自分好みであり、自分のステキだなおも
思うものでかまいません。

みだしなみは、まわりの人によい印象をもつていただくこと、他人から見た自分が大切です。

どんなにセンスよくきかざっても、相手へのはいりよがなくてははいけません。

いつも「相手からどうみえているか?」ということを考えて、服装、ヘアスタイル、メイクな

どを心がけましょう。

2019年1月19日
公益財団法人大阪YWCA

ガールズSST⑥「面接のポイント」

1. 面接は 自分のことをわかってもらうためのチャンス
長所も短所もあるけれど、まるごとの自分を「いいかんに」伝えること
「いいかんに」…やる気がある、前向き、正直、一緒に働こうと思う
「わるいかんに」…やる気がみえない、後ろ向き、対話ができない、
言わないので理解できない、うそをいう

2. あいうえお
あ…あかるい声
い…いい姿勢
う…うまい言葉えらび (はい・ありがとうございます・すみません・教えてください)
え…えがおで
お…おじぎはていねいに

3. じぶんのことを話す練習をしよう
 - ①名前や学校名
 - ②部活
 - ③趣味
 - ④長所・得意なこと
 - ⑤短所・苦手なこと
 - ⑦志望動機
 - ⑧その他……今日は、「私がガールズSSTに参加してよかったこと3つのこと」
 - 1)
 - 2)
 - 3)

ガールズSST2018★保護者学習会&修了式

- 日時……2019年1月19日(土)午後1時～3時
- 場所……大阪YWCA
- 進行……金香百合(大阪YWCA)、三宅克英(社会福祉士、元若者ジョブ・コーチ)

<★保護者学習会>

1. ガールズSST事業概要と効果
 - (1) 実施内容と参加者の状況
 - (2) 成果

2. 保護者として、当事者の今後をそれぞれどう支えるか
 - (1) 女性の20代の重要性
からだところの発達
社会生活的な成長
 - (2) 親亡き後を、常に考える、いまから準備する
 - 親はなんでも過剰に手を出しすぎない
 - 制度や多様なサポートを活用して、当事者の自立を支援する
 - (3) 住まいについて
 - グループホームやひとりくらしの入所の可能性
 - (4) 仕事について
 - 家の外に出る習慣を常につくる
 - 公的支援を得ながら、相談していく
 - (5) お金や生活費について
 - 当事者の自己管理能力を把握したうえで、第三者に委託していく
 - (6) 恋や性、妊娠、出産、結婚について
 - 障がいや特性に関わらず、これらの権利がある
 - リスクもあるが、すべてにおいて、十分に起こりうる可能性と権利を尊重する
 - (7) 居場所や趣味の必要性

3. 防災についての備えの重要性…社会的弱者として、特別な支援と準備が必要
 - (1) 家庭での備え
 - (2) 防災学習
 - (3) 避難所生活などのイメージをも
4. 質疑応答

<★修了式>

生きづらさ、特性、障がいを抱えた若者(10～30代)の自立・就労応援プログラム プランニングシート

本人氏名	相談に来た人の氏名	相談対応者氏名				
計画作成日						
検討事項						
希望する生活	本人:					
	相談に来た人:					
総合的な援助の方針						
長期目標						
短期目標						
行動計画						
目標	誰が → 誰に	実施時期	具体的手立て・役割	本人の役割	評価時期	その他留意事項
1						
2						
3						
4						
5						
6						

2018年度 WAM助成事業

個別ケース 評価シート

事業名	生きづらさ、特性、障がいを抱えた若者(10~30代)の自立・就労応援プログラム		
事業の目標	生きづらさ、特性、障がいを抱えた若者(10~30代)の相談を行い、本人および保護者との8回の面談を通じて、自立や就労にむけた個々のライフプランの作成を行う。		
担当者名	会場	本人	相談者
	梅田・玉造・千里		

相談日・回数	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目	7回目	8回目
内容	相談・同行	相談・同行	相談・同行	相談・同行	相談・同行	相談・同行	相談・同行	相談・同行
	他()	他()	他()	他()	他()	他()	他()	他()

取り組んだ課題	
課題への評価	よくできた できた まあまあ できなかった まったくできなかった
取り組みの工夫	
工夫による成果	よくできた できた まあまあ できなかった まったくできなかった
今後の課題	